

令和8年度 第1回函館市補助金評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和8年(2026年)6月29日(月) 15:00～16:00
 2 場 所 函館市役所本庁舎8階第1会議室
 3 出席委員 奥平委員長, 小形副委員長, 奥野委員, 伊藤委員, 若松委員

【会議概要】

- 1 開 会 (財務部長より挨拶)
- 2 補助金の
評価に
ついて (事務局より資料の説明)
- [質疑応答]
委員長 令和7年度補助金評価委員会の総括意見, 既存チェックシートの改善, 今年度の評価について事務局から説明があったが, 質問等あるか。
- A委員 既存のチェックシートより相当の改善が見られ, 細分化されており良いものと感じている。市として, 削減はどの程度が望ましいのか, 目安を示すことはできないか。1つの指標として議論の参考になると考える。
- 財務部長 市の財政状況は厳しい状況にあり, 補助金については, 削減をしたいという気持ちもあるが, 公費を支出する妥当性も評価していただきたいと考えている。補助金は様々な分野で支出しており, 数字だけをもって指標を作ることとは難しいと考えている。
- A委員 指標は示さず, 議論の中で廃止・削減を掘り下げながら進めていくという方向性で理解した。
- 委員長 他はいかがか。
- B委員 昨年度の議論で出た指摘点が具体的にチェックシートに落とし込まれており, ほぼ網羅されていると感じる。今年度は, チェックシートをより実効性の高いものにし, より使いやすい一覧を作ることが目的になると考えるが, その上で, 28事業ある個別事業の評価をどこまでやるのかを確認したい。前回は5事業でも検証の時間の関係で負荷が重かった記憶があり, 数を増やすと浅くなり, 減らすと深く見られるという関係になる。チェックシートと一覧表は, 適正化をチェックし続けるための仕組みづくりであり, 大事なのはこちらだと考えている。評価の仕方が固まることが最も重要で, それを決める段階でいくつかの個別事業の評価が入ってくるという順番で考えたい。
- 財政課長 資料2の28事業は, 昨年度と同じ条件で機械的に抽出した候補である。まず28事業からどのように絞り込むかであり, 絞った事業について, 改善

	後のチェックシートを作成してみたいと考えている。その上で、一覧表に落とし込んだ際に、その基準で評価できるのかどうかを、ご相談させていただきたい。
B委員	作る側の難しさと、出てきたものを見る側の難しさの両方があると思う。
委員長	C委員はいかがか。
C委員	細分化してきめ細かくデータが取れるようになったが、逆にそれをどう評価するかが難しくなっている側面もある。統計的な可視化や多次元でのグラフ化など、様々な分析手法を用いて可視化することで評価しやすくする工夫も必要ではないか。さらに、事前チェックやスクリーニングの意味で、例えばA Iを活用してデータ分布から得られるものを参考意見として示すといった手法を併用することで、評価をより現実的かつ効果的にできるのではないかという印象を受けた。
委員長	A Iは使ってみるとかなり視覚的に出てくるため、効果的なやり方かもしれないので検討していただきたい。事務局から何かあるか。
財政課長	改善後のチェックシートは、推移や数値など定量的な部分が多く、A Iとの親和性も高いと考えられるため、できる限りチャレンジしていきたい。
財務部長	今年度から、市としてもA Iを活用していくことをデジタル推進本部において決定しており、活用できるものはしっかりと活用していきたい。
委員長	D委員はいかがか。
D委員	改善後のチェックシートを見せていただき、昨年度は初めてでどう考えてよいのか分からないところが多かったが、随分と分かりやすく、考えやすくなったと感じる。一方で、評価が難しくなった部分も確かにあるが、このチェックシートで評価していきたい。
委員長	記載例の最後のページにある「今後の方向性」の「(D) その他」とは、具体例として何を想定しているのか。
財政課長	基本的には(A)～(C)のいずれかに当たるが、国や道の制度により運用している補助金について、外部の事由により廃止や見直しをしなければならない場合など、市の裁量で判断できないものを(D)とした。
委員長	(D)が外部要因による廃止であれば、「外部要因で廃止」と表記した方が分かりやすいのではないか。
財政課長	見直すこととする。
C委員	「(B) 見直したうえで補助を継続」は、増やす方向はなく、基本的に減らす方向という解釈でよいか。

財政課長	(B) の定義は、事業の中身を見直したことにより、結果的に削減となる場合も拡充となる場合もあり、どちらのケースも存在する。削減ありきではない。
C 委員	理解した。見直しの方向性について、削減へ見直すのか、何らかの形で明示する必要はないか。
財政課長	新しいチェックシートを作成していく際に、分かりやすい表現での記載に努めたい。
C 委員	理解した。
B 委員	基本的視点の再定義により、昨年迷ったところがすっきりして良いと感じる。公益性の②に「緊急性」とあるが、公益性を評価する際に緊急性の考え方が必要となる理由が分からない。今すぐやらなければ効果が出ない、またはデメリットが大きくなるということであれば、それは必要性ではないか。
財政課長	補助金のガイドラインにおける補助の公益性の定義「市の総合計画に適合し、社会経済情勢や市民ニーズの変化に的確に対応しており、緊急性が高まっている事業で積極的に推進すべきものかどうか」を参考に、文言を整理したものである。
B 委員	「必要性」についてはガイドラインになんと書いてあるか。
財政課長	「公益性があり、本当に市が補助しなければならないものか」と書かれている。
委員長	ガイドラインを作成する段階で、緊急性という言葉の定義がされていなかったのではないかと感じる。緊急性とは何かを次回までに確認いただきたい。
財政課長	承知した。
委員長	他に質問・意見等がないようであれば、既存チェックシートの改善については、事務局の説明とただいまの議論を踏まえ、資料 1 のとおり進めることとし、「緊急性」の定義については改めて検討いただくこととしたいが、よろしいか。
	(意見なし)
	それでは、そのように進める。 次に、令和 8 年度の委員会における評価について、事務局から、令和 7 年度と同じ条件で選定した場合に 28 事業が候補となる旨の説明があった。この評価対象について提案したい。 ・ 国等の制度に基づく 12 事業は、補助割合や補助対象経費が定められ

	ており、市の裁量による見直しの余地が限定的である ・ 要綱に基づく補助金のうち、番号１０の大学振興・地域水産業創生事業補助金および番号１２のまちなか店舗機能向上改修費補助金は、計画期間に合わせて令和８年度末で再検討または廃止となっている ・ 団体運営補助金のうち、番号１のロシア極東連邦総合大学函館校支援補助金は、閉校予定である令和８年度末で廃止することとなっている これらを踏まえ、計１５事業を本委員会の個別事業評価の対象から除外することとしたいが、いかがか。 (意見なし) そのように確認した。 残る１３事業について、先ほど確認した改善後の補助金チェックシートを作成し、チェックシートに記載された情報を取りまとめた一覧を作成することは可能か。
財政課長	いずれも対応可能である。
委員長	それでは、事務局において１３事業の補助金チェックシートおよび一覧を作成いただきたい。なお、一覧については、事務局で作成した案を委員長が内容確認したうえで決定することとしたいが、よろしいか。 (意見なし) 次に、個別事業の評価方法である。限られた時間の中で、より多くの事業について効率的に評価を進めるため、各委員には、事前配付する補助金チェックシートおよび一覧により対象事業の書面評価を行っていただく。 その上で、書面評価だけでは評価が難しく、所管部局へのヒアリングが必要と考える事業がある場合には、あらかじめ事務局に提出いただき、各委員からの提出を踏まえて委員長がヒアリング対象事業を選定した上で、第２回委員会においてヒアリングを実施したいと考えるが、いかがか。
B委員	書面評価は１３事業行うということか。前回の詳細資料と今回の新しいチェックシートの連関が重要だと考えている。特にＫＰＩは、本来のゴールに向かう指標をいくつも設定できるはずだが、部局としては達成しやすい指標を設定しがちであり、適正なＫＰＩかどうかを見るには、詳細データとチェックシートの連関を確認する必要がある。そうなると負荷は昨年と同程度となり、１３事業分は現実的ではない印象がある。
委員長	今回はチェックシートが整った形で記載されるため、昨年ほどの負荷はないと考えている。でき上がったシートを確認した上で、必要に応じて部局を呼んで話をするができる。
B委員	代替案として、１３事業のチェックシートと一覧を作成いただいた後、委員長と事務局で内容を確認いただき、例えばＫＰＩに対する部局の評価が極めて良すぎるもの・悪すぎるものを数件ずつ深掘りするなど、もう１つフィ

ルターをかけた上で委員に示していただいてはどうか。詳細データとチェックシートの連関を確認できるのはこのタイミングが最後であり、本当に連関しているかという点に重きを置きたい。

委員長

委員長と事務局で確認した上で示す方向としたい。加えて私からもお願いだが、市においては評価が必要以上に厳しくなる傾向があり、Aでよいところに、BやCが付くことがよくあるため、適切に評価を付けるよう求めていくことも大事である。その確認の上でもK P Iは重要となる。作業は大変になるが、やってみることとしたい。

それでは、事務局と委員長において、13事業の補助金チェックシートおよび一覧の作成を進め、K P Iについても、膨大な資料をすべて確認しなくても評価できる形に整理した上で、第2回委員会の前に配付することとするが、よろしいか。

(意見なし)

そのように確認した。

3 その他
委員長

最後に各委員、または事務局から何かあるか。

(なし)

4 閉 会
委員長

本日の委員会はこれで終了する。スムーズな進行と多くの意見をいただき感謝申し上げます。次回に向けて作業を進めていく。

財務部次長

本日の会議録については、各委員に内容を確認いただいたうえでホームページ上で公表する。第2回委員会については、8月から9月にかけての開催を予定しており、別途、日程を調整させていただく。